

せたがや生涯現役ネットワーク 令和3年度総会 議案書

次 第

(1) 議案審議

第1号議案 会則変更についてp.1

第2号議案 令和2年度事業報告について.....p.3

第3号議案 令和2年度決算・監査報告について.....p.17

第4号議案 令和3年度世話人および役職の選任について.....p.18

第5号議案 令和3年度事業計画について.....p.19

第6号議案 令和3年度予算計画について.....p.31

(2) 報告

第1号報告 会員入・退会について.....p.36

第1号議案 せたがや生涯現役ネットワーク会則の改正について(2件)

◎第5条第9項

1 改正の背景

特別会計について、監査人による監査を受けたことが分かるような報告が書類上なされておらず、監査方法が生涯現役ネットワーク加盟団体に対して分かりづらくなっていた。

2 改正の主旨

これまで、特別会計は補助金の実績報告という形で提出された会計書類を事務局が区の立場で確認をしていたが、ネットワークの加盟団体に対して資料上の報告がされていなかった。生涯現役ネットワークの会計監査に特別会計も含まれるという認識が確認されたため、特別会計も含めて世話人が選出した監査人による監査を受けることを明記するため、改正する。

3 改正点

(1) 改正前

第5条第9項

(組織及び運営体制)

第5条 ネットワークに、総会において選任した会長、副会長、世話人、会計監査を置く。

2 世話人は、4名以上とし、議決権を持つ者（以下「委員」という。）のなかから公募し、現在の世話人会が推薦するものとする。

3 世話人で構成される世話人会は、総会の決定により、具体的な企画・立案・事業実施を行う。

4 世話人の任期は1期2年間とし、再任も含めて通算3期までとする。再任の場合は世話人会の推薦を必要とする。

5 世話人の欠員補充は、総会の承認により行い、欠員者の任期を引き継ぐ。

6 世話人代表・副代表・会計担当は1名とし、世話人の互選により、代表・副代表・会計担当を1名ずつ選任する。世話人代表は会長を、副代表は副会長を兼務する。

7 会計担当は、会計簿等を備え、収入支出の状況を整理し、会計年度末に会計報告を行う。

8 会計監査は2名とする。世話人が推薦した者を世話人会が承認する。なお、任期は2年間とし、再任は2期までとする。

9 会計監査は、会計年度末に監査を行う。

(2) 改正後

第5条第9項

(組織及び運営体制)

第5条 ネットワークに、総会において選任した会長、副会長、世話人、会計監査を置く。

2 世話人は、4名以上とし、議決権を持つ者（以下「委員」という。）のなかから公募し、現在の世話人会が推薦するものとする。

3 世話人で構成される世話人会は、総会の決定により、具体的な企画・立案・事業実施を行う。

4 世話人の任期は1期2年間とし、再任も含めて通算3期までとする。再任の場合は世話人会の推薦を必要とする。

5 世話人の欠員補充は、総会の承認により行い、欠員者の任期を引き継ぐ。

6 世話人代表・副代表・会計担当は1名とし、世話人の互選により、代表・副代表・会計担当を1名ずつ選任する。世話人代表は会長を、副代表は副会長を兼務する。

7 会計担当は、会計簿等を備え、収入支出の状況を整理し、会計年度末に会計報告を行う。

8 会計監査は2名とする。世話人が推薦した者を世話人会が承認する。なお、任期は2年間とし、再任は2期までとする。

9 会計監査は、会計年度末に一般会計・特別会計の監査を行う。

◎第10条

1 改正の主旨

事務局が所属する部名の変更があったため。

2 改正点

(1) 改正前

第10条 事務局は生活文化部市民活動・生涯現役推進課に置くこととする。なお、事務局の職務は、別に定める「せたがや生涯現役ネットワーク事務局運営規則」に基づくものとする。

(2) 改正後

第10条 事務局は生活文化政策部市民活動・生涯現役推進課に置くこととする。なお、事務局の職務は、別に定める「せたがや生涯現役ネットワーク事務局運営規則」に基づくものとする。

第2号議案 令和2年度事業報告について

(1)プロジェクト

(プロジェクト)

第7条 会員は、第2条に規定するネットワークの目的を実現するため、生涯現役の社会づくりを推進し、広く区民に呼びかけるプロジェクトを提案・実施することができる。

2 プロジェクトは、ネットワークに加入している2団体会員以上が共催・協力・連携等により実施する事業又は団体会員が単独で実施する事業とする。ただし、団体会員が単独でプロジェクトを実施する場合には以下に掲げる条件を満たさなければならない。

(1)内容が社会貢献にふさわしいものであること。

(2)収益を目的にしないこと。

(3)団体の経常的な活動ではないこと。

3 プロジェクト支援金額及び件数は別途世話人会が定める。

4 同一団体、同一テーマでのプロジェクトの応募は3年を上限とし、3年を超えるプロジェクトについては別途世話人会で協議する。

5 プロジェクトの実施希望団体は、計画案を原則としてプロジェクト実施前年度の2月又は実施年度の7月までに世話人会に提出する。

6 世話人会でのプロジェクト承認をもって、プロジェクトの構成員が推薦する者が「プロジェクトリーダー」となる。

7 プロジェクトの実施に先立ち、会員にプロジェクトの参加募集をすることができる。

8 プロジェクトに関するすべての権限及び責任は、プロジェクトの構成員に帰するものとする。

9 プロジェクトリーダーは、世話人会にてプロジェクトの進行状況報告を行い、総会にて成果報告を行うこととする。

※令和2年度のプロジェクトは実施実績なし。

(2) 補助事業

令和2年度補助事業「生涯現役フェア」完了報告書

事業の名称	「コロナ時代の地域活動を考える！ 生涯現役フェア」
事業の実施期間	令和3年2月21日（日）13時～17時30分
事業の実施場所	成城ホール（無観客）
参加人数	オンラインのみの参加 115名
本事業のねらい	生涯現役フェアの目的は、区民の地域活動への参加促進と活動機会の拡大である。今回はコロナ禍のためイベント開催方法が制限されるなか、各参加団体が協力し、知恵を出し合い、連携しながら、区民に参加団体を紹介することで区民の新規入会を促すこと、未加入の団体へのPRをすることを目的とした。
実施概要	<p>13:05～13:50 招待講演 小山弘美先生（関東学院大学社会学部准教授）「コロナ禍で変わったこと、変わらないこと」</p> <p>13:50～14:20 コロナ禍の中での活動発表（3団体）</p> <p>14:20～15:00 座談会（小山先生+3団体）</p> <p>15:10～16:10 パフォーマンス（2団体）</p> <p>16:10～17:00 団体紹介の動画配信（16団体+2組織）</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のため、収録動画・ライブ動画の配信を Zoom にて行う無観客開催とした。・ホールをフラットにして収録においても3密をさけ、席の間隔をあけて換気を行い、検温、手指消毒、マスクの2重着用など新型コロナウイルス対策を実施した。・翌日から YouTube にて配信し、誰でも視聴できるようにした。・来場予定者だった方々には後日、講演資料、ネットワーク所属全団体紹介パンフ・配布希望団体単独パンフを郵送した。・事後チラシ（見逃し配信動画を見られるHP紹介）を作成し3月18日区内各所に配布した。
実施までの経緯	<p>4月5日 令和2年度総会でせたがや生涯現役ネットワーク補助事業の実施が提案され承認された。</p> <p>6月 ネットワーク加盟団体宛に実行委員募集通知送付</p> <p>8月6日 第1回イベント実行委員会<ul style="list-style-type: none">・講演者は2名とし、特別講演は無料とする。・ネットワーク加盟団体への参加者募集だけでなく、ネットワークに参加していない未加入団体募集も目標とする。</p> <p>9月3日 第2回イベント実行委員会<ul style="list-style-type: none">・講演者は1名とし、小山先生に決定する。・イベント名は生涯現役ネットワークの原点に立ち戻り「生涯現役フェア」とする。・チラシ印刷部数を3000枚とし、新聞折り込みはしない。</p>

<p>事業成果の考察</p> <p>今後の課題</p>	<p>10月2日 第3回イベント実行委員会 ・加入団体のイベント参加方法、会場レイアウトを決める</p> <p>10月26日 第4回イベント実行委員会 ・講演、口頭発表、座談会、舞台パフォーマンスのプログラムに加え12団体をブースで紹介するという枠組みを決める。</p> <p>11月17日 第5回イベント実行委員会 ・チラシ内容の最終確認 ・役割分担の決定 ・団体説明会の細部検討</p> <p>12月4日 参加団体説明会 ・コロナ対策と当日の手順・役割・配置などの説明</p> <p>12月25日 第6回イベント実行委員会 (Zoom ミーティング) ・動画撮影、編集、配信の段取り ・予算内訳、コロナ対策の確認、開催判断基準を策定</p> <p style="text-align: center;"><1都3県に1月8日～2月7日まで緊急事態宣言発令></p> <p>2月6日 第7回イベント実行委員会 (Zoom ミーティング) ・「無観客開催」とすることに決定 ・会場の配置・手順・組織図などの改訂、連絡網作成</p> <p>2月8日 第8回イベント実行委員会 (Zoom ミーティング) ・最終確認 (打ち合わせ内容は録画で記録)</p> <p>2月14日 東京新聞朝刊にて「生涯現役フェア」案内掲載</p> <p>2月18日 15:00～ リハーサル配信</p> <p>無観客だったため、事後のアンケートから推察する。「招待講演」は「良かった、大変良かった」を合わせると81.8%に上った。「コロナ禍の中での活動発表」も同じく合わせると82.4%、「座談会」は60.0%にとどまった。舞台パフォーマンスが昨年まで並列イベントのために観客が少なかったのとは異なり、リモートで多くの視聴者を得た。特に「紙芝居」は「良かった+大変良かった」が86.5%と最高値であった。</p> <p>心配されていた初めての試みであるオンラインの運営に関しては、ネットでの申込みに「まったく問題ない、普通にできた」を合わせると90.9%、Zoom ウェビナー接続に関して「簡単だった、Zoom は初めてだが簡単にできた」を合わせると84.4%という結果となった。オンライン参加に対して「初めて」は21%、「初めてだったが良い経験ができた」が33%で、「初めてでもうやらない」は0%という頼もしい結果となった。</p> <p>アンケートは記名回答としたせいか、全体的に温かみのあるコメントが多かった。今回初めてZoomを経験した人が多く、</p>

シニアが本イベントをきっかけにリモート経験したことが一つの成果と言えるのではないか。

参加者 115 人中の 1/4 が入会団体を見つけたいとの参加動機であった点からも当初の目的に合致しており、本フェアの企画は適切だったと考察する。

「音声が悪く残念だった」との指摘について今後対策を講じたい。もう 1 台移動カメラ（収音マイク付）追加で解決かも。

また、今回の経験を踏まえて各団体が Zoom、YouTube を活用し、各々の活動を紹介していくことについて支援をしていきたい。（これを受け、団体内部で You Tube 講座も始まっている）

令和2年度補助事業「シニアの社会参加しくみづくりプロジェクト」完了報告書

事業の名称	シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト
事業の目的	生涯現役ネットワーク（以下：当ネット）では、従来から地域活動の担い手の発掘やシニア世代が地域社会で活躍する場を創ることを目的として、「せたがやシニア現役プロジェクト事業」を実施してきた。 本プロジェクト（以下：本P J）は、この事業をきっかけとして当ネットの活動団体への新規加入者を確保してきた実績を踏まえ、その実施手法を見直して、さらに多くのシニアに地域活動への参加を促すために、受け入れ団体となる地域活動団体のネットワークの強化に取り組みながら、シニアの地域活動や社会貢献活動への参加を促す「しくみ」づくりを目的として実施した。
実施の経過	<ul style="list-style-type: none"> ・本P Jは、当ネットの2019年9月の臨時総会で事業計画と予算化の承認を受けて実施された。 ・当初2020年4月以降にP Jの実行委員会を立ち上げ、当ネットが実施してきた「まちあるき」と「地域活動体験講座」を合わせた形で参加者を募集し、併せて地域活動団体とのマッチングを想定した交流会を開催する予定だったが、2020年4月のコロナ対策の緊急事態宣言で、実施のスタートが遅れた。このため、当ネットの6月の書面総会に合わせて：本P Jの実行委員を当ネットの中に公募し、今回初の試みとして、世田谷ボランティア協会と世田谷区社会福祉協議会に当P Jの実行委員を推薦してもらい、7月20日に準備会を開催し、実行委員メンバーの顔合わせをしてスタートした。 ・本P Jでは、コロナ感染対策として、同じ場所に多くの人を集めないために、区内5地域に分散して開催することとし、11月14日（土）に5地域同時の第一回イベント開催を10月15日版の区報に掲載して、参加者を募集した。 ・その後、世田谷、砧、玉川、烏山では、それぞれ2回のイベントを開催した。 ・各地域では、主にまち歩きイベントの実施とともに、参加者に対していろいろな地域の活動を紹介した。当初予定した「交流会」は、コロナの影響で開催を断念し、当ネット主催の「生涯現役フェア」に参加者を誘導することにした。
事業の実施期間	2020年6月～2021年3月
事業の実施場所	世田谷区内5地域（世田谷、北沢、玉川、砧、烏山）
参加人数等	<ol style="list-style-type: none"> 1、実行委員会（全19名） <ul style="list-style-type: none"> ・生涯現役ネット構成団体の公募の委員（10名） ・世田谷区社会福祉協議会推薦の地区サポーターの委員（6名） ・世田谷ボランティア協会推薦のボランティアの委員（3名） 2、P Jの開催イベント参加者（延べ216名） <ul style="list-style-type: none"> ・参加者（延べ149名） ・講師（延べ8名） ・実行委員含む当日スタッフ（延べ59名）

事業の実施結果	1、実行委員会の開催				
	No	実行委員会	開催日	場所	参加数 (+区担当)
	1	準備会	7月20日	うめとぴあ	14 (17)
	2	実行委員会 (1)	8月12日	ゆうゆう会館	17 (19)
	3	実行委員会 (2)	8月21日	宮坂区民センター	13 (15)
	4	実行委員会 (3)	9月9日	ゆうゆう会館	15 (18)
	5	実行委員会 (4)	9月30日	ゆうゆう会館	14 (16)
	6	実行委員会 (5)	10月21日	うめとぴあ	12 (15)
	7	実行委員会 (6)	11月12日	うめとぴあ	15 (19)
	8	実行委員会 (7)	11月18日	うめとぴあ	15 (18)
	9	実行委員会 (8)	12月17日	宮坂区民センター	14 (16)
	10	実行委員会 (9)	1月21日	ゆうゆう会館	15 (17)
11	実行委員会 (10)	3月24日	うめとぴあ	11 (13)	
2、開催イベントの内容					
(1) イベント・講座					
地域	回数	イベント・講座	場所	参加者数	
世田谷	第1回	身近な歴史を訪ねるまちあるき	友遊会館～代官屋敷	15	
	第2回	「豪徳寺～松陰神社」の烏山川緑道の街歩き	宮坂駅～松陰神社	16	
	第3回	もっと知りたい世田谷 (座学)	友遊会館	9	
北沢	第1回	新/旧下北沢の街とNHK朝ドラ「エール」ゆかりの地を楽しむ	北沢タウンホール 下北沢・代田周辺	15	
玉川	第1回	社会参加あとおし講座 (座学)	九品仏複合施設まちづくりセンター	9	
	第2回	秋の等々力溪谷の散策	等々力溪谷～野毛古墳	11	
	第3回	防災について学ぶ (with コロナ時代のシニアの社会参加ワークショップ)	九品仏複合施設まちづくりセンター	12	
砧	第1回	砧の歴史探訪	成城自治会館	15	

	第2回	砧公園オリエンテーリング	大蔵地区会館・砧公園	12
	第3回	成城の近代建築と国分寺崖線を巡る	成城まちづくりセンター	14
烏山	第1回	ノルディックウォーキング体験	粕谷区民センター 芦花公園	9
	第2回	芦花公園の樹木観察	芦花公園	8
	第3回	八幡山、上北沢の地域課題をみて歩く	八幡山・上北沢地域	4

(2) 参加者の様子

講師、(無償) 協力者、(有償) 補助員、実行委員、一般参加者、

第1回	種別/地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	計
	講師	0	1	0	1	1	3
	協力者	2	0	3	1	0	6
	補助員	0	2	0	0	0	2
	実行委員	5	3	3	3	2	16
	参加者	15	15	9	15	9	63

第2回	種別/地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	計
	講師	1	—	1	0	1	3
	協力者	1	—	1	1	0	3
	補助員	0	—	0	3	0	3
	実行委員	4	—	3	3	3	13
	参加者	16	—	11	12	8	47

第3回	種別/地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	計
	講師	1	—	0	1	0	2
	協力者	0	—	2	1	0	3
	補助員	0	—	0	0	0	0
	実行委員	4	—	3	3	3	13
	参加者	9	—	12	14	4	39

合計	種別/地域	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山	総計
	講師	2	1	1	2	2	8
	協力者	3	0	6	3	0	12
	補助員	0	2	0	3	0	5
	実行委員	13	3	9	9	8	42
	参加者	40	15	32	41	21	149

事業の成果
の具体的内
容

1、本P Jの記録（報告）など

- (1) 実行委員会（全11回）の議事録
- (2) 5地域の企画GRのイベント実施報告書
- (3) イベント参加者アンケート

2、参加者アンケートの集計結果から本P Jの参加者の様子を成果として示す。

回答者数144名（延べ参加者149名）回答率97%

(1) 回答者の参加地域

地域	回答数	割合
砧	40	27.8%
世田谷	37	25.7%
玉川	32	22.2%
烏山	20	13.9%
北沢	15	10.4%

(2) 開催順と回答者の割合

回数	回答数	割合
第1回	61	42.4%
第2回	46	31.9%
第3回	37	25.7%

(3) 回答者の年代

年代	回答数	割合
無回答	11	7.6%
40代	1	0.7%
50代	6	4.2%
60代	41	28.5%
70代	69	47.9%
80代	16	11.1%

(4) 回答者の性別

性別	回答数	割合
無回答	37	25.7%
男性	41	28.5%
女性	66	45.8%

(5) イベント参加の満足度

参加して	回答数	割合
無回答	12	8.3%
満足	97	67.4%
やや満足	34	23.6%
どちらでもない	1	0.7%
あまり満足しない	0	0.0%
満足しない	0	0.0%

(6) 本P Jのイベントを何で知ったか(複数回答)

何で知ったか	回答数	割合
区のお知らせ	46	41.8%
友人・知人から	38	34.5%
募集チラシ	15	13.6%
その他	6	5.5%
生涯現役ネットのHP	4	3.6%
区のHP	1	0.9%

(7) 自治会などに所属しているか

自治会など	回答数	割合
無回答	6	5.9%
所属している	37	36.3%
していない	59	57.8%

(8) すでに団体・GRに所属しているか

団体GRに	回答数	割合
無回答	12	11.8%
所属している	53	52.0%
していない	37	36.3%

2、参加者アンケートの自由記述から(抜粋)

(1) 良かった点(自由記述)

- ・世田谷に長年住みながら訪れることもなくゆっくりと見学しました。とても満足です。
- ・地域で様々な活動をされているシニアの方がいらっしゃると知って励みになりました。今後地域の中でネットワークづくりや地域活動に参加したいと思いました。
- ・グループで歩くということの楽しさを実感しました。
- ・世田谷区の中で多くのシニアの方が多方面で活躍されているのを知ること

ができて良かったです。

- ・日常ひきこもりの生活をしていて歩くことが少ないので皆様と一緒に歩いてとてもよかったです。
- ・全て良かったです。「防災 災害ボランティアの必要や課題を知ることが出来た。「地域活動のあり方」は小さなことでも一歩ずつ参加したい、と感じました。グループワークはコロナ禍にあって、工夫し、つながりを絶たず心の不安を和らげることを念頭に、と、良いお話し合いでした。
- ・みんなと一緒にだと知らないうちに歩ける。

(2) 不満足な点 (自由記述)

- ・せっかくのよい企画にもっと多くの方が参加できるとよいと思いました。
- ・こういう機会を増やし、多くの方に知ってもらいたいと思います。
- ・狭い道などは車などの交通に気を付ける。住宅街ではあまりおしゃべりしないで進むなども大切なのではないかと思います。
- ・コースを考えながらリーダーも最後の時間を合わせるのが大変そうでした。なんとか歩けましたが、ちょっとつらかったです。
- ・募集時に詳細があまりわからなかった。もっと内容が前もって知りたい。

(3) 希望・提案・ご意見 (自由記述)

- ・地域を知ること、様々な角度、知見から見るができる企画は楽しいし、興味をそそがれる。地域、地元の歴史を学ぶ機会が多い方が良い。
- ・このような町歩きにまた参加したい。
- ・機会があれば今回に続くような散策に参加したいと思いました。
- ・コロナがまだ続くと思いますが、できることを実施していけたらと思います。
- ・今は思いつきませんが、地域との関りは大切にしたいと思います。
- ・一人でも多くの方が参加できる企画を開催し続けて頂けたらと思います。
- ・できる地域ボランティアを探してゆきたいと思っています。
- ・コロナで大変ですが、今後とも企画をよろしく願いいたします。
- ・町あるき、時々実施するといいと思う。
- ・ポールウォーキングのような野外で活動する企画が増えると良い。
- ・高齢者にとってそとへ出ることは必要なので、近くでよいので出かけられる企画があればと思います。

- ・是非デビューしたいと思っていますが、なかなか焦点が絞れません。このような機会に参加して自分に合うものを見つけないと思っています。
- ・自分ができることをよく考えてみたい、と思いました。
- ・地域参加をどうするかという問題をこれから考えて行きたいと思っています。
- ・ボランティア活動の本質がよく理解できた。より一層他のボランティアに参加してみたい。
- ・社会参加は自分が一歩踏み出すこと、本日の講座は有意義でした。
- ・世田谷歩き楽しいです。
- ・企画運営の皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・使える時間は限られている中、できる事は何かよく考えていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひボランティアに参加して、これからの人生を有意義に送りたい。スタッフの皆様へ感謝 ・このような催しには今後とも参加して地域に親しみを持っていきたい。 ・地域での情報交換、交流がもっと広く、深くしていければと思います。 ・とにかくこのコロナ禍での活動が制限されているが、来年夏以降を目指し頑張りたい。 ・今まで深く地域活動について勉強してきた事はありませんでしたが、今回の研修はいい体験をさせて頂きました。皆様方のご活躍を祈ります。 ・コロナの中無事に開催された事がうれしかったです。頑張ります。書道も子供の勉強（特に3～4年生）も個人ですがお役に立てれば幸いです。親の介護施設訪問などごたごたしながらやっています。時間があれば・・・ ・楽しかったです。ご苦労様です。 ・近所をめぐる街歩きでしたが普段通ったことはあっても由緒などを知る機会がないので新鮮でした。楽しいひとときをありがとうございました。
<p>成果の自己評価</p>	<p>1、実行委員会の振り返り（議事録から）抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このPJに参加したのは自分が社会参加したかったから。今回地域の中に出ていくことで、出会ったみなさんと人のつながりをどれだけ作れるかにつける。人が出会って知り合っていくことに意味がある。地道で時間がかかると思うが、「しくみづくり」も人と人とのつながりをどれだけ作れるのかだと思う。 ・みんなで集まってやることからつながりができれば良いと思っている。楽しくて、気楽な話し合いができることが社会参加につながる。最初からこうするのではなく、個人的な話も出て、こういう風に、こんなふうにかしたらと、すこしでも前に進めるという道筋が見えて、また誘ってねとかが必要。 ・短い期間のなかで、地域を分けて実施したが、11月は一杯いっぱいだった。烏山のノルディックとか、災害対策のワークショップだとか、その人たちしか考えられないようなイベントを実施できた。それぞれの得意分野を活かすしくみになればよいと思う。今回のPJで、実行委員の得意分野がわかってきたので、2年目は一人一人が得意分野を活かせば良いと思う。 ・人と人とのつながりが大切、自分のためにも、社会のためにも、参加者それぞれが考えることが大事 ・参加してみて楽しかった。新しい方と知り合えて、内容がどうより、知り合えたことが良かった。 ・今回のPJへの参加は、自分の団体の立場からの視点が強かった。上から目線かもしれないが、社協もボラセンも同じ悩みを持っていることが分かった。 ・新しい人とのつながりができるのは良いものだと思う。生涯現役ネットに参加して、参加者それぞれ違う、それまでの人生から吸収できるのはすごいことだと思っている。このPJでも、参加者同士で一丸となってもっと碎

けた形の仲間づくりをやってみたい。

- やったことは自己満足かもしれないが、たくさんの方々と知り合えた。玉川地域は人材資源が眠っている。こういう方々にこそP Jに参加してやって欲しいと思う方々がたくさんいた。
- 従来のP Jは、ゆうゆう会館だけでやってきたが、今回の5地域での開催は良かったと思う。来年度は一カ所か、分散してやるかはわからないが、生涯現役ネットだけだと限界があったことを、社協やボラ協に協力してもらってイベントを開催し、生涯現役ネットを広くPRする機会になった。
- シニアの社会参加とはなんだろうと考えている。今回は実行委員のつながりで、まちあるきということで集まったが、それをきっかけにして、社会参加する人たちを増やすこと、生涯現役ネットの関係団体に参加してもらうことが、進められたのか？
- 今回の参加者は、コロナの影響のある11/14日の第一回イベントの時期でも世田谷区が認めたイベントなら問題はないと思って参加した人が多かったのではないかと。コロナがなければまた異なる反応があったかもしれない。
- 町会も地域のクラブ活動もあったが、今回の実行委員は、いままでそれぞれが取り組んできた活動の中に、いろいろな問題を感じていたので、本P Jに集まってきたのだと思う。
- アイデアに限界があるので、人脈も広がり、いろいろな人たちのスキルがまぎるのは良いことだ。皆さんと知り合えたことがメリット。
- 何をやっているのかわからない団体やグループが、こんなにあるんだと思った。

2、今後の課題など（来年度のP Jについて）

- 今回のP Jでは参加者数はある程度確保できたが、その方々が地域活動に参加するなどの次に続ける方法論が明確になっていない。
- 今回は、「まち歩き」だけで参加者を募集したが、従来実施していた各団体への体験プログラム「団体活動体験」募集の方法も検討が必要。
- 今回は、社協とボランティア協会の協力で、従来とは違う枠組みで、P Jを実施できた。実行委員は、生涯現役ネットの中には公募して、社協とボランティア協会は推薦してもらったが、来年度も同じやり方でよいか考える必要がある。
- 社協の中でも活動しているが、今回のP Jへの参加の立場はまだ確認できていない。同じ世代の人たちと接点をつくれるということは良いと思う。社協だけではない人たちをどう集めるかも、課題かもしれない。
- 来年度もこの実行委員会を同じメンバーでやるかは、検討が必要。
- 今回は5か所で分散開催したが、一か所に集約して実施したらどうなっていたか。この実行委員会のやり方の評価が必要。
- 各地域での企画ではなく、イベントをみんなで考えて、各ブロックでやる

	<p>方法も良いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・今回地域分けしたが、本来、しくみづくりをきちんと話し合ってから、イベントに取り組む必要があったのではないか、・各地域のイベントの日程をずらして、どのイベントにも参加できるようにすれば、もっと多くの人に参加できるようになる。そんなイベントをお手伝いしたい。今回の実行委員は自分と同じ年齢層の方々が多く、幅が広がったのは確か。・シニアが心から喜ぶことを、もっとやってみたい。ちゃんと検討してもっと魅力あるものを見つけられないか。今、あなたは何がしたいのという魅力を作り出すそんな内容のディスカッションをしたい
--	---

(3)ホームページ委員会

2020(令和2)年度「せたがや生涯現役ネットワーク」 ホームページ委員会報告書

主旨	<p>2012（平成24）年度以来続けてきた生涯現役ネットワークのホームページの運営管理は、2018年度からホームページ委員会に引き継がれた。このホームページは、生涯現役ネットワークおよびその会員団体の活動情報を発信したり、会員団体のホームページとのリンクを張るなど、会員団体間の情報共有のツールであり、各会員団体が相互に積極的な利用を図ることにより、より活発な活動を推進することを目的としている。</p>																
事業実績・評価	<p>事業実績) 次の活動を行った。</p> <p>①HPの運営方針は、昨年度と同様に、情報収集については委員全員で担当し、HPの更新作業については、マニュアルに沿って、誰でも更新作業が出来るようにした。</p> <p>②ネットワークの活動情報や会員各団体のイベント情報を広報した。会員団体からの個別の依頼に応じてイベント情報を掲載したほか、委員各位が収集した情報を掲載した。定例的な活動については定期的に情報収集して掲載した。また区報などに掲載された情報の中から会員団体のイベント情報を得て、HPに転載した。</p> <p>③新型コロナウイルスの感染防止のため、6月までは活動ができず、その後も自粛モードになり、10月から再開するようになったが、今年に入ってまた緊急事態宣言が発出され、自粛モードに戻った。例年に比べ、全体的に活動状況は低迷した。</p> <p>④「生涯現役フェア」について、HPによる広報と参加申込受付窓口を提供し、また途中でオンライン開催に変更したことを受けて、HPで告知し、フェア終了後はYouTubeでの配信に協力した。</p> <p>⑤世話人会や事務局から要望のあった情報を掲載した。</p> <p>⑥HPへの問い合わせについては、事務局や代表と相談して、対応した。</p> <p>評価) 2018年度から委員会体制になり、安定的な運営ができるようになった。今年度は団体活動が自粛されたため、HPに掲載されたイベント件数は313件（昨年度は464件）にとどまった。今年度は生涯現役フェアの告知で即座に対応することが多く、広報担当世話人やYouTube担当の実行委員と緊密な連携をとることができた。</p> <p>現在のホームページ委員は、石川令子、岡崎宏、片岡龍次、真貝高三、菅野達夫、藤田秀一（任期途中で逝去）の6名。（敬称略、五十音順）</p>																
会計報告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 15%;">収入</td> <td style="width: 45%;">運営費</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">60,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>支出</td> <td>HP更新作業費</td> <td style="text-align: right;">3000円 x 12月 = 36,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>会議・活動費</td> <td style="text-align: right;">6000円 x 4回 = 24,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">60,000円</td> </tr> </table>		収入	運営費	60,000円		支出	HP更新作業費	3000円 x 12月 = 36,000円			会議・活動費	6000円 x 4回 = 24,000円			計	60,000円
	収入	運営費	60,000円														
	支出	HP更新作業費	3000円 x 12月 = 36,000円														
		会議・活動費	6000円 x 4回 = 24,000円														
		計	60,000円														

令和2年度 生涯現役ネットワーク 会計報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

1. 一般会計

収入の部

項目	予算	収入額	増減	備考
前年度繰越金	231,616	231,616	0	
年会費	110,000	106,000	▲ 4,000	
利息	0	2	2	
令和元年度懇親会残	0	26,365	26,365	
寄付	0	500	500	
合計	341,616	364,483	22,867	

支出の部

項目	予算	支出額	増減	備考
世話人会運営費	30,000	18,500	11,500	
ホームページ管理費	60,000	60,000	0	
プロジェクト支援金	30,000	0	30,000	
消耗品費	5,000	0	5,000	
郵送、通信費	5,000	576	4,424	
Zoom有料版契約料	24,200	22,000	2,200	
予備費	187,416	0	187,416	
合計	341,616	101,076	240,540	

(支出額合計) 364,483 - (収入額合計) 101,076 = 263,407

差引残高 263,407円は、令和3年度に繰越いたします。

第4号議案 令和3年度世話人および役職の選任について

(組織及び運営体制)

第5条 ネットワークに、総会において選任した会長、副会長、世話人、会計監査を置く。

- 2 世話人は、4名以上とし、議決権を持つ者(以下「委員」という。)のなかから公募し、現在の世話人会が推薦するものとする。
- 3 世話人で構成される世話人会は、総会の決定により、具体的な企画・立案・事業実施を行う。
- 4 世話人の任期は1期2年間とし、再任も含めて通算3期までとする。再任の場合は世話人会の推薦を必要とする。
- 5 世話人の欠員補充は、総会の承認により行い、欠員者の任期を引き継ぐ。
- 6 世話人代表・副代表・会計担当は1名とし、世話人の互選により、代表・副代表・会計担当を1名ずつ選任する。世話人代表は会長を、副代表は副会長を兼務する。
- 7 会計担当は、会計簿等を備え、収入支出の状況を整理し、会計年度末に会計報告を行う。
- 8 会計監査は2名とし、会計年度末に監査を行う。なお、任期は2年間とし、再任は2期までとする。

令和3年度世話人

役職	氏名	団体名	任期
会長	兜山 好直	世田谷区健康体操連盟	3期1年目
副会長	臼井 達郎	世田谷地域デビューの会	3期1年目
会計	石川 令子	世田谷環境学習会	3期2年目
	秋山 宣興	ひだまり文化研究会	2期1年目
	河上 勇	世田谷砂場クラブ	1期2年目
	古谷 絹江	世田谷ウォーキングフォーラム	1期1年目
	横地 彦太郎	世田谷区誌研究会	1期1年目

令和3年度会計監査

氏名	団体名	任期
松本 富美子	食・生活・安全未来協会	2期1年目
真貝 高三	世田谷地域デビューの会	1期2年目

第5号議案 令和3年度事業計画について

(1) 運営体制

内容	役割分担等
総会 年2回ほど	世話人 議題内容の事前確認、当日説明 ----- 区(事務局) ・ 資料(開催通知、会議資料、議事録)の作成および送付 ・ 会場予約
世話人会 年5回ほど (必要に応じて、Zoom 会議を行う。 p.29 に Zoom の使用に ついて覚書あり。)	世話人 プロジェクトや新規入会会員の承認等 ----- 区(事務局) ・ 資料(会議資料、議事録)の作成および送付 ・ 会場予約 ・ 会員の入退会管理
プロジェクト	プロジェクトリーダー ・ 企画運営を行う ・ 世話人会および総会での報告 ----- 区 ・ 後援申請が認められたプロジェクトのみ、区後援事業として、 チラシの配布協力をする
<p>※ネットワークでは、中高年世代の地域活動参加を推進する企画を「プロジェクト」として支援している。プロジェクトは2団体会員以上の共催または団体会員が単独で実施する事業のことである。なお、団体会員が単独でプロジェクトを実施する場合には会則に定める条件を満たさなければならない。</p>	
・ イベント ・ シニアの社会参加の しくみづくりプロジェクト	実行委員 ・ 企画運営を行う ・ 世話人会および総会での報告 ----- 区 ・ 事業経費不足分について補助金支出 ・ チラシ配布、区のおしらせ掲載
ホームページ運営	ホームページ委員会 ・ 運営管理を行う ・ 世話人会および総会での報告
活動一覧改定	区 調査票の取りまとめ 編集委員 印刷、製本を行う

(2)プロジェクト

(プロジェクト)

第7条 会員は、第2条に規定するネットワークの目的を実現するため、生涯現役の社会づくりを推進し、広く区民に呼びかけるプロジェクトを提案・実施することができる。

2 プロジェクトは、ネットワークに加入している2団体会員以上が共催・協力・連携等により実施する事業又は団体会員が単独で実施する事業とする。ただし、団体会員が単独でプロジェクトを実施する場合には以下に掲げる条件を満たさなければならない。

(1)内容が社会貢献にふさわしいものであること。

(2)収益を目的にしないこと。

(3)団体の経常的な活動ではないこと。

3 プロジェクト支援金額及び件数は別途世話人会が定める。

4 同一団体、同一テーマでのプロジェクトの応募は3年を上限とし、3年を超えるプロジェクトについては別途世話人会で協議する。

5 プロジェクトの実施希望団体は、計画案を原則としてプロジェクト実施前年度の2月又は実施年度の7月までに世話人会に提出する。

6 世話人会でのプロジェクト承認をもって、プロジェクトの構成員が推薦する者が「プロジェクトリーダー」となる。

7 プロジェクトの実施に先立ち、会員にプロジェクトの参加募集をすることができる。

8 プロジェクトに関するすべての権限及び責任は、プロジェクトの構成員に帰するものとする。

9 プロジェクトリーダーは、世話人会にてプロジェクトの進行状況報告を行い、総会にて成果報告を行うこととする。

【参考】令和元年度プロジェクト

番号	プロジェクト名
1	「せたがや生涯現役ネットワーク」を共生社会に活かすためのプロジェクト

※コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度プロジェクトの募集は延期し、実施はなかった。

令和3年度「せたがや生涯現役ネットワーク」プロジェクト企画書

プロジェクト名	世田谷ゆかりの生涯現役電車と旅館を訪ねる会 Visiting Vintage Trains & Hotel connected with Setagaya
開催日時	令和3年9月18,19日、又は10月16,17日あるいは11月27,28日 (上記3候補から、募集開始時期も含めて新型コロナ感染状況を見て決める)
会場	銚子市・銚子電鉄、大多喜町・大屋旅館、いすみ市・ポッポの丘、御宿市・レトロぶーぶ館 (集合場所:明大前駅最寄甲州街道側道)
事業主体	主体となる団体: 世田谷風景じゅく 連携する団体: あり・なし 「あり」の場合団体名→世田谷砂場クラブ
テーマ	世田谷にゆかりの車両等に関連した千葉県内の施設群を巡る1泊2日の見学会を企画し、多くの同好者を集めて新しい交流・親睦を図る。
趣旨	かつて世田谷を走った電車が、2度の定年退職を経て、今も銚子電鉄で現役続行中。大多喜町大屋旅館は、かつての三軒茶屋の石橋楼を彷彿させる文化財でかつ現役の旅館。ポッポの丘には世田谷でかつて活躍した電車の台車に再会できる。レトロぶーぶ館には懐かしい自動車が沢山展示してある。こうした世田谷にゆかりの車両・旅館を効率的に見学する会を催すことで、世田谷区史研究会や世田谷風景じゅくの会員あるいは区内の鉄道・自動車ファンが交流する場を提供する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 参加者募集(チラシ配布・生涯現役ネットワークHP活用など) 見学会を企画、実施・・・「別紙1」参照 報告書を作成(参加者アンケート、実施者の気づき)・公開し、今後の類似した交流事業の促進に役立てる。
期待される効果	直接的効果: 地域の仲間を増やす。 間接的効果: 本見学会を通じて、世田谷に縁のある銚子電鉄、ポッポの丘、レトロぶーぶ館、大屋旅館の応援になる。
経費予算見積	収入: 参加者数により変動する会費(一人8,000円～16,000円)×人数(20人～10人)160,000円 又は0円(企画主体のみの実施=コロナ状況によるオプション=コロナに負けない地域活動) 支援費=10,000円 総額 170,000円又は10,000円
	支出: チラシ・報告書印刷代 10,000円、バスチャーター費 160,000円(実費を参加者の均等負担) 又は0円 総額 170,000円又は10,000円

別紙 1

世田谷ゆかりの生涯現役電車と旅館を訪ねる会
Visiting Vintage Trains & Hotel connected with Setagaya

見学先訪問ルート



(3) イベント

本事業は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえで実施し、今後の新型コロナウイルスの感染状況等によっては事業内容やスケジュールを変更する。

補助事業の名称	(仮称)「生涯現役フェア」
補助事業のねらい	「せたがや生涯現役ネットワーク」は、設立目的の一つとして、中高年世代に対する地域活動を取り入れたライフスタイルの提案や、中高年世代の地域活動への参加促進と活動機会の拡大を図るため、地域の活動団体、区民、企業及び教育機関等に対し、生涯現役の推進のための理解の促進・啓発に関する情報交換及び交流の場を提供することをうたっている。本イベントを開催することで、参加者の地域活動のきっかけとなることをねらいとする。具体的には、生涯現役を実践している著名人による講演会を開催するとともに、本ネットワーク参加団体による舞台発表や展示を実施する。
補助事業の対象	区内在住の中高年
補助事業の実施期間	令和4年2月20日(日)
補助事業の実施場所	成城ホール(多目的ホール、4階集会室A～E)
予定参加人数等	180名
補助事業の実施方法	◆年間スケジュール(予定) 令和3年 7月 実行委員募集、講演者検討 8月 イベント出展団体及び当日スタッフの募集 9月 ポスター・チラシデザイン、当日スケジュールの検討 12月 来場者募集開始 令和4年 1月 最終確認、イベント出展団体及び当日スタッフへの説明 2月 イベント実施 3月 実施報告書の提出
補助事業の期待できる成果	生涯現役社会づくりを目指す「せたがや生涯現役ネットワーク」の存在と役割を広く区民に周知すると同時に、各参加団体のPRを図り、社会的活動、特にボランティア活動で社会を支えてくれる多くの人材を獲得できる。

(4)シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト

本事業は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえで実施し、今後の新型コロナウイルスの感染状況等によっては事業内容やスケジュールを変更する。

1 事業名称	(仮称) シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト
2 事業の内容及び実施方法	<p>(1)事業の目的</p> <p>①背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会は少子高齢化が進む中、多くの子育て世代は共稼ぎなどで、昼間は地域を不在としていることから、地域が必要とする助け合いなどの社会活動に人手が不足している。 ・退職後のシニアは、会社生活が長いために、自分が生活している地域のことを知らずに、地域に知り合いや友達がほとんどなく、家に閉じこもりがちになるケースが多くある。 ・退職後のシニアが、地域に友達を作り外出して健康的な生活を維持すること、地域の社会貢献活動に参加してくれることを促す場やしかけが必要とされていて、特にサポートを必要としている方々や、地域の問題解決に必要なシニアの知識や経験を活かすコウデュネイトのしくみづくりが急務である。 <p>②事業の目的</p> <p>シニア世代の地域活動や社会貢献活動への参加を促すこと、またシニアの地域社会での活躍の場を創ることを目的として、既存の組織や制度を活用し、地域活動団体のネットワークの強化に取り組みながら、世田谷に適したシニアの社会参加のしくみづくりを目指す。</p>
	<p>(2)事業の実施方針</p> <p>◆昨年度実施したPJの課題に取り組む（実行委員アンケートから）</p> <p>昨年（令和2年度）に取り組んだ「シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト2020」では、シニア世代の人集めの実績はできたが、具体的な地域活動参加への誘導や、参加のしくみづくりまでには至らなかった。</p> <p>これは、本PJが実行委員の募集から、5地域の分散実施まで、初めての取り組みだったことや、コロナ感染の非常事態宣言などの状態で進められたこともあるが、いずれにしても本年度は、実行委員の中で、シニアの社会参加のしくみづくりを十分検討する場を設けることを含め、以下を方針として進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) シニアの社会参加のしくみづくりの勉強会を開催する。 2) PJのまち歩きを主体としたイベントを区内5地域で開催する。 3) ネットワークの各団体を始め、ボランティア協会や社協の関係団体への活動体験のプログラムを実施する。 4) PJ参加者・関係者の全体交流会を開催する。 5) 「生涯現役フェア」を活用してPJ参加者にネットワーク団体や地域活動への参加を促す。

<p>(3)事業の内容</p>	<p>1) シニアの社会参加のしくみづくりの勉強会を開催する。(全3回を予定) ・PJ実行委員を主な参加者として、しくみづくりの課題と手段を探る</p> <p>2) 「世田谷のまち歩き+地域活動紹介のイベント」の開催 ・世田谷の5地域で、シニア世代の参加者を各15名程度募集 ・史跡や文化財の説明いただく講師を依頼する。 ・チラシ作成、配布 ・区報に参加者募集を掲載 ・各団体から当日スタッフの協力を得る。</p> <p>3) 地域活動体験のプログラムの実施 ・シニア世代の地域活動体験の希望者を募集し、ネットワークの各団体を始め、ボランティア協会や社協の関係団体への活動を紹介し、活動を体験するプログラムを実施する。 ・世田谷の5地域で、シニア世代の参加者を各15名程度募集 ・受け入れ団体の募集 ・チラシ作成、配布 ・各団体での活動体験 ・活動報告会と懇親会</p> <p>4) 活動記録の作成と生涯現役ネットワークホームページ掲載</p> <p>◆上記を実施しながら、次年度以降の活動を「実行委員会」にて研究する。 1) シニアの社会参加の支援者や支援リーダーの育成を目的とした「講師派遣」の検討 2) シニアの社会参加ニーズのアンケート調査 3) 社会福祉協議会や世田谷ボランティアセンターの事業との連携のしくみづくり 4) 活動団体のメンバー募集や活動PRに関するIT支援のしくみづくり</p>
<p>(4)実施体制</p>	<p>1) 本プロジェクトは、生涯現役ネットワークの世話人会が、事業計画と予算、決算などの事業責任をもって、具体的な活動はプロジェクトの実行委員会を組織し進める。</p> <p>2) 実行委員と協力者の呼び掛け ・生涯現役ネットワークの各団体に実行委員を公募する。 ・世田谷ボランティア協会と世田谷区社会福祉協議会に正式に実行委員の推薦を依頼する。 ・実行員以外にPJ協力者を募る(大学の研究室やネットワーク団体の会員など・・・)</p> <p>3) 集まったメンバーで実行委員長、副委員長、会計などの責任者を選出し、参加者の自主的な市民活動として、活動を進める。</p> <p>4) 実行委員会は定期的を開催し、活動内容や進捗を生涯現役ネットワークの世話人会へ、逐次報告する。 5) PJ実行委員会のメンバーによる事務局活動を、市民活動・生涯現役推進課が支援する形で本PJの事業を実施する。</p>
<p>(5)令和3年度事業完了予定日</p>	<p>令和4年3月31日</p>

3 事業の 成果や 効果	(1)期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果	<p>1) 講座参加者が、生涯現役ネットワーク参加団体のメンバーになってくれること、また、参加者のアンケートなどで、本事業の効果を把握し、事業内容を改善するようにPDCAを回すことにより、シニアが気軽に社会参加するきっかけを作るしくみとなる。</p> <p>2) 生涯現役ネットワーク参加団体が、「地域活動体験・せたがや街歩き講座」の講師やスタッフを担当することや、受講生の受け入れなどを通じて、それぞれの活動の意味を再確認し、また活動自体を広める機会とできる。</p> <p>3) 講座参加者募集などで、生涯現役ネットワーク加盟団体等の協力を得て、シニアの社会参加のしくみを効果的なものにできる。</p> <p>4) 講座参加者の交流イベントに地域活動団体にも参加してもらうことで、シニアの社会参加の受け皿となる生涯現役ネットワーク参加団体同士の活動を知り合い、お互いに顔の見える関係を作って、それぞれの活動を協力し合うきっかけとできる。</p>
	(2)事業の成果の活用方法、将来の展開	本項前記(1)期待される具体的な成果を通して、世田谷区の共生社会を実現するための「地域包括ケアシステム」のしくみづくりに寄与していく。

事業実施スケジュール（案）

時期	内 容
令和3年 4月	◆シニアの社会参加のしくみづくりPJ2020の実行委員へのアンケート実施
5月	◆生涯現役ネットワークの世話人会で2021年度のPJ実施の確認
6月	◆生涯現役ネットワークの世話人会で2021年度のPJ実施方法の確認 ◆シニアの社会参加のしくみづくりPJ2021の実行委員の募集
7月	◆実行委員会（第1回） ・2021年度のPJ実施計画の検討・確認（1） ◆シニアの社会参加のしくみづくりの勉強会（第1回）
8月	◆実行委員会（第2回） ◆シニアの社会参加のしくみづくりの勉強会（第2回）
9月	◆実行委員会（第3回） ・実施協力者・団体への呼びかけ ・「PJのイベント」の案内チラシの作成 ◆シニアの社会参加のしくみづくりの勉強会（第3回）
10月	◆実行委員会（第4回） ◆区報によるPJのイベント参加者募集 ・「PJのイベント」の案内チラシの配布 ◆「PJのイベント」の実施（1）
11月	◆実行委員会（第5回） ◆「PJのイベント」の実施（2）
12月	◆実行委員会（第6回） ・PJのイベントの状況確認、報告会、交流会の準備確認、など ◆「地域活動体験」の報告と交流会（受け入れ団体も参加） ◆「PJのイベント」の実施（3）
令和3年 1月	◆実行委員会（第7回） ◆「PJのイベント」の参加者交流会
2月	◆実行委員会（第8回） ・実施の記録や参加者アンケートなどのまとめ ◆生涯現役フェアの参加
3月	◆実行委員会（第9回） ◆シニアの社会参加のしくみづくりPJ2021の報告書作成

(5) ホームページ委員会

2021(令和3)年度ホームページ委員会活動計画案	
委員会名	生涯現役ネットワーク ホームページ委員会
趣旨	このホームページは、ネットワークおよびその会員団体活動の情報を発信したり、会員団体のホームページとのリンクを張るなどの、会員団体間の情報共有のツールであることを理解していただき、各会員団体が相互に積極的な利用を図ることにより、より活発な活動を推進することを目的とする。
事業内容	<p>2012年度に立ち上げた生涯現役ネットワークのHPは、軌道に乗り、2018年度に委員会体制に変わったので、委員各位による情報収集力強化と安定的な運営が可能となった。</p> <p>2021年度は次の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本年度も引き続き新型コロナウイルスの感染防止のため、各団体とも慎重な活動・運営を行うと思われるので、状況を見ながらHPの情報発信を柔軟に進めていくとともに、Zoomの活用も図っていきたい。 ② ネットワークの活動を広報する。 ③ 会員各団体のイベント情報を広報する。会員団体からイベント情報の提供を得て掲載するほか、定例的な活動をしている会員については定期的な掲載を行う。また区報などに掲載された情報の中から会員のイベント情報を得て、HPに転載する。 ④ HPを持っていない会員からの活動紹介や会報誌の紹介依頼により掲載する。HPを持っている会員からのリンク張りの依頼に対応する。 ⑤ 「生涯現役フェア」が行われる場合は、HPによる広報と参加申込受付窓口を設置する。オンライン開催に備えて、ZoomやYouTubeへの対応を図る。また各団体がYouTubeで活動紹介する場合、HPへの掲載に協力する。 ⑥ ネットワークのプロジェクトのイベントに、広報面で協力する。 ⑦ 世話人会や事務局から要望のあった情報を掲載する。 ⑧ その他、会員にとって有用と思われる情報を掲載する。 ⑨ HPへの問い合わせについては、事務局や会長と相談して対応する。
期待される効果	生涯現役ネットワークおよびその会員の広報活動に貢献できる。 委員会体制とすることにより、活用度の向上と安定的な運営ができる。
収入	収入:年間 60,000 円
支出	<p>HP更新作業費 3000円 X 12月 = 36000円</p> <p>会議費(注) 6000円 X 4回 = 24000円</p> <p>計 60000円</p> <p>注:委員の会議参加の交通費および情報収集のための活動費見合い</p>

参考資料

(Zoom の管理について、せたがや生涯現役ネットワーク内で覚書を取り交わす。)

Zoom 会議に関する覚書

「せたがや生涯現役ネットワーク」を甲とし、「代表 兜山好直」を乙とし、世話人会などの会合に Zoom アプリを使用した遠隔会議(以下「Zoom 会議」という)を利用することに関して、次の通り覚書を取り交わす。

(管理者の委嘱)

第 1 条 甲は乙に対し、令和 3 年 4 月 1 日付けで、Zoom 会議の管理者を委嘱し、乙はこれを受諾する。

2 委嘱された Zoom 会議は、乙個人の利用目的では使用できない。

(管理者の業務)

第 2 条 乙は、Zoom 会議の管理者として、以下の業務を行う。

1 世話人および事務局が支障なく Zoom 会議に参加できるよう、技術面の指導・支援を行う。

2 甲の指定する日時に Zoom 会議を開催する。Zoom 会議の事前準備から、当日の Zoom 会議の開設、退場までの技術面の運営を行う。

3 Zoom アプリの有料版「小規模チーム用の Zoom ミーティングプラン(プロ)」が利用できるよう、乙の名義で、Zoom 社と契約する。また契約期間中、同社との間で技術面の対応を行う。

4 乙は Zoom 社に毎月の使用料を立替えて支払う。

(費用の支払い)

第 3 条 甲は、乙の Zoom 社への支払い済み領収書に基づき、乙が立替えた金額を遅滞なく乙に支払う。

(Zoom 会議の打ち切り)

第 4 条 甲は、Zoom 会議の開催が不要と判断した時は、乙に対し Zoom 社との契約打ち切りを要請する。ただし、契約打ち切り時期については、同社との契約規定による準備期間を考慮して、余裕を持った期日とすること。

2 乙は、甲の要請を受けて Zoom 社との契約終了の手続きを行う。その際発生する費用については、乙が立替えて支払い、甲は第 3 条の趣旨に沿って、領収書に基づき、乙に遅滞なく支払う。

(Zoom 会議の再開等)

第 5 条 甲は、Zoom 会議の開催を再開すると判断した時は、乙に対し Zoom 社との契約を再度締結することを要請する。

- 2 乙は Zoom 社との契約を再度締結し、第 2 条に定める管理者としての業務を再開する。
- 3 甲が再度 Zoom 会議の打ち切りを判断した時は、第 4 条の趣旨に沿って乙に要請し、乙は Zoom 社との契約を終了する。

(有効期間)

第 6 条 この覚書の有効期間は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日までとする。ただし甲が Zoom 会議を継続している限り、本覚書を 1 年ごとに自動的に更新するか、あるいは委員会形式の運用継続とするかを、有効期限までに決定するものとする。

(協議)

第 7 条 甲及び乙は、この覚書を変更する必要がある場合、又はこの覚書に定めのない事項若しくは疑義を生じた事項について新たに定める必要がある場合においては、その都度協議するものとする。

甲及び乙は、本書を 2 通作成し、各自その 1 通を保有する。

令和 3 年 4 月 1 日

甲 せたがや生涯現役ネットワーク

乙 せたがや生涯現役ネットワーク世話人代表 兜山好直

第6号議案 令和3年度予算計画について

令和3年度の予算について、以下の通り執行する。

1. 会費の納入について

会則どおり、年2,000円の会費を徴収する。

2. 執行について

一般会計は会費を、特別会計は区補助金を主な財源とし、それぞれ所要の経費を執行する。

収入		R 2 予算額	R 3 予算額	差額
特別会計	(1) イベント			
	講演会入場料	90,000	50,000	▲ 40,000
	区補助金	400,000	470,000	70,000
	(2) シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト			
	参加費			
	地域活動体験参加費 (500円×50名)	25,000	25,000	0
	せたがや街歩き講座参加費 (500円×30名)	15,000	15,000	0
	区補助金	494,000	831,000	337,000
	計	1,024,000	1,391,000	367,000

支出		R 2 予算額	R 3 予算額	差額
特別会計	(1) イベント	490,000	520,000	30,000
	出演料	200,000	200,000	0
	イベント保険料	10,000	10,000	0
	チラシ・ポスターデザイン費	20,000	20,000	0
	チラシ印刷費	75,000	50,000	▲ 25,000
	消耗品費	15,000	15,000	0
	通信費	15,000	20,000	5,000
	実行委員・当日スタッフ交通費及び弁当代	60,000	45,000	▲ 15,000
	出展・出演団体事務費補助	50,000	50,000	0
	実行委員会議交通費	45,000	40,000	▲ 5,000
	パンフレット作成費	0	70,000	70,000
	(2) シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト	534,000	871,000	337,000
	事業経費	279,000	706,000	427,000
	打合せ会議費(交通費)	35,000	60,000	25,000
	打合せ会議室借用料	4,000	16,000	12,000
	チラシ作成(デザイン料)	30,000	40,000	10,000
	チラシ印刷費	30,000	40,000	10,000
	地域活動体験講師謝礼(ゲスト講師)	10,000	10,000	0
	地域活動体験謝礼(補助スタッフ)	60,000	60,000	0
	地域活動受け入れ団体謝礼	30,000	30,000	0
	街歩き講師謝礼(ゲスト講師)	10,000	75,000	65,000
	街歩き謝礼(補助スタッフ)	40,000	300,000	260,000
	街歩き実地調査(交通費)	30,000	75,000	45,000
	共通経費	255,000	165,000	▲ 90,000
	文具事務用品	30,000	50,000	20,000
	通信費	30,000	40,000	10,000
	企画運営管理費 (会計業務等)	125,000	25,000	▲ 100,000
	雑費	0	50,000	50,000
	パンフレット作成費	70,000	0	▲ 70,000
	計	1,024,000	1,391,000	367,000

区補助金合計	1,301,000
--------	-----------

※区補助金は支出予算額（1,391,000円）から入場料および参加費の収入（90,000円）を引いた金額となる。

一般会計

2021年度（令和3年度）生涯現役ネットワーク予算計画 （令和3年4月1日～令和4年3月31日）

	<u>収入の部</u>	
前年より繰越		263,407円
年会費（団体）		
令和3年度分52団体		104,000円
	計	<u>367,407円</u>

	<u>支出の部</u>	
世話人運営費		30,000円
ホームページ管理費		60,000円
プロジェクト支援金		30,000円
消耗品代		5,000円
郵送・通信費		5,000円
ZOOM 有料版通信費（2,200円×12か月）		26,400円
予備費		211,007円
	計	<u>367,407円</u>

特別会計（１）イベント

【収入】

費目	金額（円）	積算内訳
講演会参加費	50,000	500円＊100名
区補助金	470,000	
計	520,000	

【支出】

支出	金額（円）	積算内訳
出演料	200,000	講演者出演料
イベント保険料	10,000	400名＊25円
チラシ・ポスターデザイン費	20,000	
チラシ印刷費	50,000	
消耗品費	15,000	
通信費	20,000	切手、ハガキ、FAX、印紙等
実行委員・当日スタッフ交通費及び弁当代	45,000	当日交通費 500円＊45人 弁当代 500円＊45人
出展・出演団体事務費補助	50,000	2,000円＊25団体
実行委員会議交通費	40,000	500円＊8回＊10人
パンフレット作成費	70,000	
計	520,000	

特別会計（２）シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト

1 区補助金該当部分

【収入】

費目	金額（円）	積算内訳
地域活動体験参加費	25,000	500円*50名
せたがや街歩き講座参加費	15,000	500円*30名
区補助金	831,000	
計	871,000	

【支出】

費目	金額（円）	積算内訳
(1) 事業経費		
打合せ会議費(交通費)	60,000	500円*15名*8回(実行委員会)
打合せ会議室借用料	16,000	2,000円*8回(実行委員会)
チラシ作成(デザイン料)	40,000	2種類(地域活動体験、せたがや街歩き講座)
チラシ印刷費(送料込み)	40,000	2種類(2,000枚、カラー、両面、A4)
地域活動体験講師謝礼(ゲスト講師)	10,000	5,000円*2名
地域活動体験謝礼(補助スタッフ)	60,000	5,000円*3名*4回
地域活動受け入れ団体謝礼	30,000	2,000円*15団体(資料準備、交通費等)
街歩き講師謝礼(ゲスト講師)	75,000	5,000円*5コース*3回
街歩き謝礼(補助スタッフ)	300,000	5,000円*4名*5コース*3回
街歩き実地調査	75,000	5,000円*3名*5コース
小計(ア)	706,000	
(2) 共通経費		
文具事務用品	50,000	コピー代、インク用紙代、会議資料費等
通信費	40,000	電信料、郵便料
企画運営管理費	25,000	会計業務
雑費	50,000	新型コロナウイルス対策物品(消毒液等)
小計(イ)	165,000	
計	871,000	(ア) + (イ)

2 その他経費

費目	金額	積算内訳
交流会経費	実費	予算計上せず
協力団体・個人の通信費	実費	予算計上せず

第1号報告 会員入・退会について

(1) 会員入会について

番号	入会承認日	団体名
1	6月17日	トゥレット友の会

(2) 会員退会について

番号	団体名
1	全世田谷野球倶楽部
2	ミュージックスマイル
3	健康フォーラムけやき21
4	NPO法人 たつなみ会
5	ウェルケアガーデン馬事公苑

令和3年6月30日現在、52団体加入